

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第18週 (4/27-5/3) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		18週	17週	16週	15週
小児科		17	18	18	18
眼科		4	5	5	5
インフルエンザ*		23	27	27	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	4/27-5/3	4/20-4/26	4/13-4/19	4/6-4/12	4/20-4/26
			18週	17週	16週	15週	17週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.12	3 0.17	4 0.22	2 0.11	11 0.08
	咽頭結膜熱		5 0.29	1 0.06	4 0.22	6 0.33	83 0.62
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		43 2.53	57 3.17	54 3.00	51 2.83	478 3.59
	感染性胃腸炎	○	133 7.82	135 7.50	112 6.22	98 5.44	699 5.26
	水痘		7 0.41	10 0.56	4 0.22	9 0.50	53 0.40
	手足口病		2 0.12	3 0.17	7 0.39	0 0.00	17 0.13
	伝染性紅斑	○	29 1.71	23 1.28	22 1.22	22 1.22	169 1.27
	突発性発しん		10 0.59	13 0.72	15 0.83	14 0.78	79 0.59
	百日咳		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	8 0.06
	流行性耳下腺炎	○	10 0.59	2 0.11	3 0.17	3 0.17	56 0.42
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		20 0.87	64 2.37	68 2.52	29 1.07	450 2.16
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.25	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.25	3 0.60	0 0.00	2 0.40	16 0.48
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1 1.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	後天性免疫不全症候群	女性	50歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	-	-	-	-

・結核2件(65)、レジオネラ症1件(2)、後天性免疫不全症候群1件(1)、梅毒1件(5)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

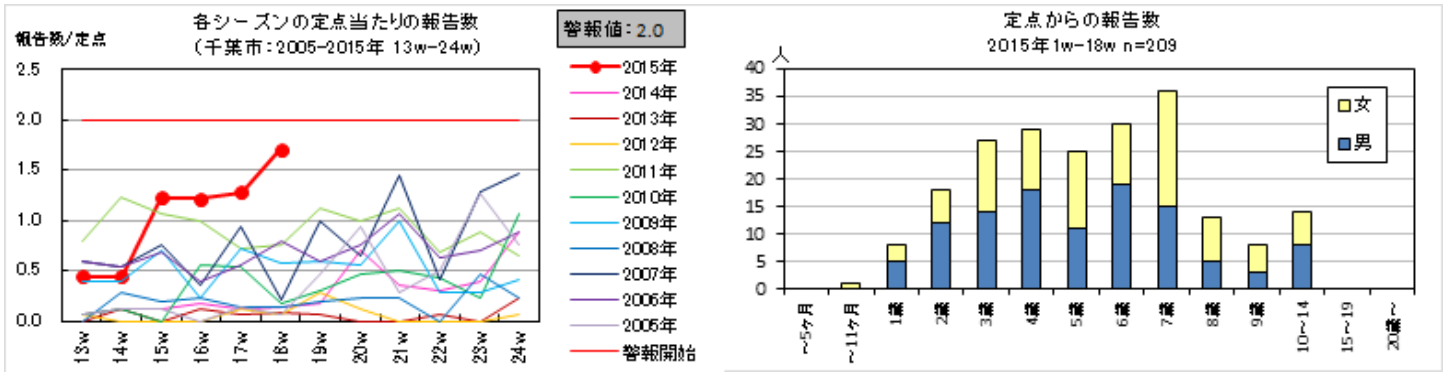
定点当たり報告数 第18週のコメント

- <感染性胃腸炎>前週より増加し7.82となった。過去10年の同時期と比べると多め。
- <伝染性紅斑>前週より増加し1.71となった。過去10年の同時期と比べると最多。
- <流行性耳下腺炎>前週より増加し0.59となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

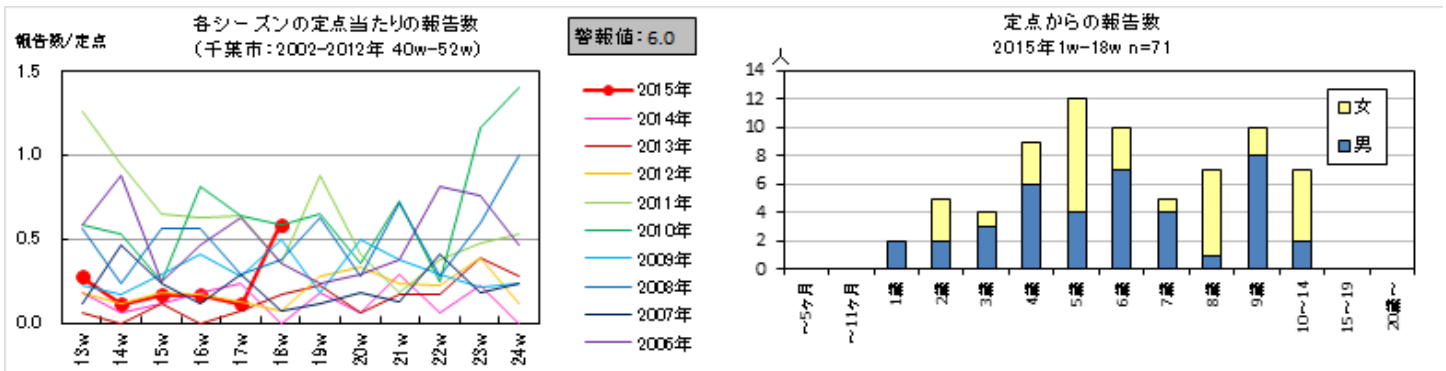
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの2015年第17週現在は、過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、滋賀県、福島県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第18週は、前週より増加し1.71となり、過去10年の同時期と比べると平均+2SDを上回り非常に多く最多となっています。区別の発生状況では、緑区(5.0/定点)で流行警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第18週現在の累積報告数(n=209)によると、性別では男性が52.6%(110名)、女性が47.4%(99名)で、年齢階級別では7歳(17.2%:36名)、6歳(14.4%:30名)、4歳(13.9%:29名)の順に多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの2015年第17週現在は、過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、沖縄県、佐賀県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第18週は、前週より増加し0.59となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況では、若葉区(3.5/定点)で流行注意報基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第18週現在の累積報告数(n=71)によると、性別では男性が54.9%(39名)、女性が45.1%(32名)で、年齢階級別では5歳(16.9%:12名)、6歳及び9歳(共に14.16%:10名)の順に多くなっています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの2015年第17週現在は、過去8年間の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、大分県、福井県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市は2015年第16週から連続して増加しており、第18週は前週より増加し7.82となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況では、若葉区(13.5/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生が報告されました。若葉区は、第1週から過去10年の平均+SDを上回る週が半数を超えるなど高い水準で推移しています。今シーズンである2014年第36週から2015年第18週現在の累積報告数(n=4085)によると、性別では男性が54.4%(2224名)、女性が45.6%(1861名)で、年齢階級別では1歳(15.8%:644名)、3歳(11.3%:461名)、2歳(10.7%:436名)の順に多くなっています。

